

平成28年度第2回 知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議
議事録

日時：平成29年3月9日（木）13：30～16：30
場所：斜里町産業会館 2階 大ホール

会 議 次 第

開会

あいさつ

議事

1. 実施部会からの報告
 - (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業（審査）
 - (2) 先端部地区利用の心得の点検検討部会（審査）
 - (3) 外国人旅行者向け情報発信の強化部会（報告）
 - (4) 赤岩地区昆布ツアー部会（審査）
2. 個別部会等からの報告
 - (1) 知床五湖地区における取組
 - (2) カムイワッカ地区における取組
 - (3) ウトロ海域における取組
3. 長期モニタリングについて
4. その他
座長からの会議運営に関する提案

閉会

事務局 環境省 石川

これより平成28年度第2回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議を始める。開会に先立ち、環境省釧路自然環境事務所長の安田より挨拶する。

事務局 環境省 安田

本日は年度末のお忙しい中お集まり頂き感謝する。また、知床の保全及び運営に関し、日頃から尽力頂き改めて感謝する。このエコツーリズム検討会議は、知床の持続可能な利用及び保全とあるべき姿について、具体的な事例を持ちながら検討して行く重要な会議と

理解している。本日も長時間に渡ると思うが、活発に議論頂きたい。

事務局 環境省 石川

本日の出席状況について報告する。委員については庄司委員のみ欠席である。名簿に記載はないが、科学委員会から桜井委員長が初めて出席頂いた。その他の方々については名簿を確認頂きたい。

配付資料一覧は名簿の次に付けている。不足等あれば事務局に声掛け頂きたい。
以降の進行を敷田座長にお願いする。

敷田座長

本日の会議は3時間の予定であるが、話題がたくさんあるため積極的に発言願う。
事務局から案内があったが、本日は科学委員会の桜井委員長が出席されている。

科学委員会 桜井委員長

桜井です。

敷田座長

皆様ご存じの通り、科学委員会は知床世界遺産の管理に対し、科学的な助言をするアドバイザーボードである。施策を決定する場ではないが、的確な科学的根拠に基づくアドバイスをする重要な仕事を担っている。本日は委員長にご参加頂いているが、制度上オブザーバーであり発言の権利はない。しかし、皆様の承認があればアドバイス等を発言頂けるがいかかが。はい（会場参加者承認）。承認頂いたため必要であれば発言頂きたい。

本日は石川委員と間野委員に専門委員としてご参加頂いている。残念ながら庄司委員は欠席だが、私達がフルメンバーで会議に臨むということは、本日の会議が非常に重要であるからである。私達の意気込みを感じて頂き議論して頂きたい。

また、安田所長から案内があったように、この会議は知床エコツーリズム戦略に基づく議論をする場である。エコツーリズム戦略の中では、エコツーリズムに限らず観光一般を取り扱うことになっている。そのことから、知床世界遺産地域の利用について、主に非営利の観光利用、それから一般の利用を扱っているため、その点を承知頂きたい。

なお、ここでの発言により皆様の責任が問われることはない。自由な発言を願う。皆様それぞれの経験や立場に基づく専門家として、個人の判断で発言頂きたい。一方で団体や組織の利益を主張して頂く場でもあるので、個人の意見であるか団体としての意見であるかを、なるべく明確に区別して発言頂ければ皆様の誤解が無い。また、議事録作成上、発言の際に名前を言って頂くよう協力願う。

以上で進行に関する私からのお願い、案内と共有を終わりたいが、質問や意見はあるか。特に無い場合議事を進める。

本日は13時30分～16時30分までの3時間の会議である。中間に休憩を一度取りたい。進行については私に一任して頂きたい。本日の重要な議事は、ほぼ毎回出てくる「提案」と関連する議論、承認、審査、従来から進めてきた個別の部会からの報告である。その後3番目に長期モニタリングについての報告、4番目にその他の項目として私から運営に関する提案をさせて頂きたい。

1番目の議事は、実施部会からの報告である。4項目あるが、これ以外にも提案、提案の審議や議論、承認を続けているので、これまでの経過を整理した上で今回の事案を扱う。前回会議において、私から北海道庁に整理をお願いしていたため、今回資料を入れて頂いている。北海道庁の石井氏より過去の経過について説明頂き、おさらいをしてからスタートしたい。

【議事4. その他 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況】

北海道オホーツク総合振興局 石井

知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況について説明（資料4-1）

敷田座長

今の報告に関連した発言はあるか。

羅臼山岳会よりモニタリングの件について説明願う。

羅臼山岳会 佐々木

報告があった知床沼部会については、我々山岳会が毎年、現在もモニタリングを続けている。そのため報告が無いというのは間違いである。モニタリング結果は、毎年環境省に提出している。会議で部会としての報告が必要であれば、いつでもすると伝えてあるが、必要ないと言われているため報告していない。必要であればいつでも報告するため訂正願う。

敷田座長

山岳会よりモニタリングは実施しており、結果は事務局に提出しているが、この場での報告は必要ないという指示があったということであった。次回報告をして頂ければ共有できるため、もう一度相談して頂きたい。次回9月の会議の際に、これまでの分についてもまとめて報告頂きたい。石井氏はそれで良いか。

北海道オホーツク総合振興局 石井

補足させて頂くと、現状この会議の場での報告がないということである。

敷田座長

場を設けるので次回報告願う。現在の戦略に基づく提案の進捗状況についての報告を終わり、次の議題に入るがよろしいか。それでは次の議題に入る。

議題の 4 件について、それぞれ右に「(審査)」、「(報告)」と書かれているが、石井氏より説明があった表中におけるタイミングのどこに位置しているかを示している。今回の審査については、私達が参照している知床のエコツーリズム戦略に掲げる「遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上」「世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供」「持続可能な地域社会と経済の構築」の基本 3 原則と 8 つの視点に基づいてそれぞれ判断をしていく案件である。

資料中にも原則及び視点に言及した説明があるが、この点を了解の上で発言願う。繰り返すことになるが、皆様には経験やこれまでの知見に基づく「専門家」としての発言を求めている。専門家とは、ご自身の感覚で発言をするのではなく、ご自身の経験や見たもの、聞いたものについて、事実に基づいた発言をして頂ける方であると想定しており、その点を了解頂きたい。

団体や組織の利益に関する発言はして頂いて良い。そういう発言はあって然るべきだが、専門家としての発言なのか、団体の代弁をしているのかを明確にして頂きたい。なお、専門家としての発言に責任は問われない。間違いがあったとしても同様である。根拠に基づいた発言として他の人は理解するので、その点は遠慮なく発言頂きたい。

特に高いレベルの発言を求めているわけではなく、見たもの聞いたものについて、事実に基づいた発言をして頂きたい。この点だけ了解願う。

ここにいるワーキンググループの委員も根拠に基づく発言をするが、その根拠が間違っている、誤認をしているという可能性もある。皆様方の意見のほうが事実に基づいており、正しいというケースもあるため、その点も承知を頂きたい。

実施部会からの報告の 1 件目、現在も進行中である厳冬期の知床五湖エコツアー事業について、提案者から説明願う。

【議題 1. 実施部会からの報告 (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業 (審査)】

知床斜里町観光協会 代田

厳冬期の知床五湖エコツアー事業の平成 29 年度以降の継続について説明 (資料 1-1-1)

厳冬期の知床五湖エコツアー事業の評価について (再掲) について説明 (資料 1-1-2)

敷田座長

説明についての意見、質問等はあるか。窓口の斜里町より補足はあるか。ない、ということ承知した。

石川委員

私は植物関連の知識を中心とする専門委員として参加させて頂いている。毎回参加して

いるわけではないため理解していない部分があるかもしれない。資料中に植生についての記載がある。資料 1-1-2 の「4. 植生への影響とコースについて」でも、大きな影響を与えているとは考えにくいと記載されている。

場所から考えても事実であると思うが、ここは審議の場であるため状況が十分に把握できないと審議がしづらい。どういうコースであり、植生の状態がどうであるかについて記載した最低限の資料が無ければ審議ができない。今後は地理情報等の資料も含め用意頂きたい。ツアー参加の動機や利用者については色々なデータがあり、はっきりわかるようになっている。現場の状況についても用意頂くよう要望したい。

敷田座長

コース及び内容についての資料について、指示がいき届かず失礼した。
知床斜里町観光協会より、植生への影響についてモニタリングも含めて説明願う。

知床斜里町観光協会 代田

私は植生についての専門性がないため、環境省の前田氏より現場状況についての説明を補足願う。

敷田座長

環境省の前田氏に報告とコースについて説明願う。

事務局 環境省 前田

補足させて頂く。まず資料の不足について事務局としてお詫びする。

コースについては、3年前の承認の際に配布した資料と大きな変更はない。口頭で説明するのは少々難しい。基本的には夏と同様に五湖、四湖、三湖、二湖、一湖という周り方で利用している。夏との違いは、凍結した湖の上を通過する点や、流氷を見るために一湖より断崖側まで行く点など、コース設定が一部異なる。定量的なものではないが、融雪に伴い毎日刻々と状況が変わる中で、地面や植生が露出している箇所はルートから外すよう指導しており、ガイドの方にも常に配慮して頂いている。

注意事項をまとめた文書を作成しているため、お示しすることは可能である。

敷田座長

石川委員、今の回答でいかがか。(石川委員承認する) 承認頂き感謝する。
現地でガイドの皆様に負う部分が大きいツアーである。ガイド協議会から補足はあるか。

知床ガイド協議会 岡崎

夏と冬のコースは完全に異なり、現在の厳冬期ツアーは湿原を通っている箇所が多い。

融雪により道が悪くなると湿原に入ることができないため、植生への影響はないと考える。また、湖の上を歩くことが危険な状況になれば湖に入ることができないため、こちらも植生への心配はないと考える。

植生への影響があるとすれば、オホーツク海を見るため一湖へ行った後に高架木道の先まで行く道中にある、強風の影響で地面が露出する箇所への影響が考えられる。しかし、そこを避けて積雪のあるところだけを歩くというルールで動いているため、その場所においても植生への心配はないと考える。

敷田座長

関連して利用の専門家である愛甲委員から意見はあるか。

愛甲委員

私は今年本ツアーに実際に参加させて頂いた。一斉に出発するため、人数が多いと騒がしい状況になる懸念がある。現時点での利用者数は上限の半分程度だが、今後増加した場合を考えると、静寂性確保のために、出発時間をずらして歩くなどどのような対策をとるつもりなのかを教えて頂きたい。

敷田座長

実際の体験に基づく話をして頂いた。参加者が一度に入ることになるので、会話等で騒がしくなるということである。今回の案件は平成26年7月4日、この場所の静寂性を最大限配慮したツアーだということ承認している関係上、これが保証されないツアーとなると非常に問題である。このため改善の余地はないかという質問、意見だったと思うがいかがか。

知床ガイド協議会 岡崎

確かに出発の際はどうしても騒がしくなってしまう。半数以上が外国人という面もあり騒がしさがあるかもしれない。しかし、出発すると五湖へ行く途中である程度分散する。ガイド同士も距離を取りたいと考えており、ある程度の間隔を取りながら歩く。外国人は非常に写真撮影が好きで時間をかけるため、後続のグループが追いついてしまうということもあるが、お互いに気をつけながら歩いているため、静寂が失われる危険性は少ないと思う。

ガイド車両を使うこともあり、多くて10人の乗車である。1日あたり150人以下の範囲内としているが、その上限まで利用者がいることはないため心配ない。

敷田座長

物理的なりミットもあるということであるが、愛甲委員はいかがか。

愛甲委員

私も現状問題を感じたわけでない。今後利用者が増えた場合の懸念として質問させて頂いたが、非常に上手く調整されて歩いていると感じた。利用者によっては、静かに鳥の声を聞きたいという方もいるため、様々な運用の中で工夫してほしい。

敷田座長

他に意見・質問はあるか。

桜井委員長

外国人の利用が増加しているとのことだが、どこの国の方が多いのか教えてほしい。

知床斜里町観光協会 代田

現在把握している範囲で報告する。外国人の内訳はほとんどがアジア系で占められており、欧米人は1割いないという状況である。

敷田座長

昨シーズンの報告をして頂いた際には、2,127人のうち外国人が930人の43.7%。中国162人、香港53人、台湾46人、韓国30人、シンガポール10人と報告頂いており、今の回答の通りである。岡崎氏から補足はあるか。

知床ガイド協議会 岡崎

今年の報告をする。昨年とは少し状況が違い中国の人が圧倒的に多かった。香港ではなく大陸、台湾の人よりも中国という傾向だ。昨年までは沿海部、上海方面からの人が多かったが、今年は圧倒的に北京からの人が多い。北京の人は、マナーにおいて少々問題が出てくることもあるため、どう対処していくかが課題であるが、事前の対応により対処できると思っている。

敷田座長

私からの意見を述べる。来年度から除雪費がツアー催行者に負荷されることとなる。平成26年に承認した際に除雪費は300万円と予想されている。300万円の支出が加わるのは、ツアー運営上非常に重荷になると考えられる。ツアーの無理な催行や人数増に繋がらないかと懸念するがいかがか。

知床斜里町観光協会 代田

利用料金にどう跳ね返るかという問題にも繋がる可能性がある。現在業者に見積もりを

取り収支計画を試算しているが、200万円以内で除雪可能という見込みである。スタート時の協力金は2,000円で、現在は1,500円と値下げしている。除雪費用に比例するため平成29年度以降の協力金を検討した結果、平成28年程度の2,300人の利用が見込めれば100円～200円の値上げで継続可能だと考えている。

敷田座長

試算では現在の大枠の中で実施可能と理解した。一方でこの冬期の新しい資源開発は、これまで課題であったガイドの冬期雇用や、収入源に繋がる重要な事業だと位置づけることができる。流氷ウォークに続く第2の資源開発だと考えられるため、今後維持することが非常に重要になる。

今後のことを考えると2点の提案がある。1点目は、来年度の予算を見積もることも必要だが、この場で報告をし、皆様の意見を取り入れて頂きたい。

2点目は、愛甲委員からも質問があった静寂性の確保についての問題である。利用者アンケートによると、ツアーの参加動機で非常に回答が多かったのは、五湖に行ってみたかったというものである。そして、二番目が静寂な知床を楽しみたかったという回答である。これに従えば、本来静寂性を楽しむために行くツアーのはずなので、五湖を目的としたツアーとは区別してよいと思う。

このことから、雪上ウォークが楽しめる場所を知床五湖以外でも開拓し、代替りの場所を用意することも考えられるのではないかと。検討期間も含め第3の資源開発、(誰でも参加する)汎用化した雪上体験ツアーの造成も含めて考慮する余地があると思う。ただし関係機関の支援や相談も必要になると思うため、観光協会単独で解決せよという問題ではない。

知床斜里町観光協会 代田

平成26年に承認頂いたこの事業は、斜里町長を会長とする知床五湖冬期適正利用協議会において試験除雪の協力を頂き3年間続けてこられたという、五湖だけに限定している協議会である。一方で観光協会はその限定した役割ではないので、冬のメニューをどう資源開発するかがこれからも課題であると考えている。

極端に言えば国道、例えば知床峠に向かう通行止めの道路を観光資源として利用できないか、フレペや他の場所等、我々も考えていないわけではない。しかし、世界遺産地域内では道路を利用するとしても規制の問題があり、それらに足踏みをしている状況もある。今後全体的に検討しながら考えていきたい。

敷田座長

関連の意見はあるか。

愛甲委員

厳冬期の知床五湖をどのように位置付けたら良いのか。様々な冬のアクティビティがある中で、誰でも行ける場所として位置付けるのか、限られた人数だけで利用できるようにするのか。様々なメニューとガイド事業者を含めて相対的にどう位置付けるかという議論をしなければならない。それは協議会でやるのではなく、課題として認識しながら別の機会に議論することをこの会議で考えなければと感じる。

敷田座長

観光協会が主体的に進めて欲しい。今回の承認に関しては私からも意見を述べたが、愛甲委員の発言にもあったように、「知床の冬期」のブランドイメージをもう一度しっかりと確立し、合わないイメージのものについては別の資源開発を検討することが望ましい。現在のツアーは管理が行き届いているが、今後の除雪の問題もあるため、当面は報告をして頂く。これが承認の条件となると考えるがいかがか。

知床斜里町観光協会 上野

観光協会としては協会員のメリットをどう高めるかをベースに考えているが、現実問題としては知床にとって知床五湖はやはり最高のブランドである。そういう意味でも五湖がテーマであった。

我々は一般的な観覧ツアーでなく、一步踏み込んだツアーをガイド付きで行っている。適正利用の自然保護の考え方の中で、流氷がどのようになっているか、知床での冬がどういう位置付けになるか、今のスタイルをどう膨らませるかを考えている。例えば、これ以上の利用増加になればガイド不足も懸念され、利用のチャンスを増やしていくことにも課題が残る。

このツアーをどういう位置付けにしていくかを皆様に議論して頂きたい。除雪についても自主除雪でどこまでできるのかは不安があるため、例えば建設管理部の除雪に依存したスタイルで五湖を使っていけるかということも含め、議論して頂ける場を作ってもらえることができれば非常にありがたい。

敷田座長

主旨に賛同頂いたと理解する。報告及び皆様の意見からすると、内容的にも管理されているため、承認の条件は満たしている。しかし、上野氏の発言にあったように、今後もブランドの維持、新たなブランドの位置付けの見直しも含めて進めていただきたい。それを条件として承認したいと思うが皆様の意見を伺いたい。

具体的な条件は、1点目、五湖では静寂性を楽しむツアーを行うこととし、そうでない雪上ウォーク等のツアーを行う場合はフレペの滝や自然センター付近の資源開発を含めてもう一度ご検討頂く。2点目、五湖のブランドについては知床のナンバーワンブランドとして除雪費用が付加されても汎用ツアーに変化させず、品質の維持を考える。

3 点目、参加者のデータからすると、外国人利用者のうち若年の 30 歳以下が 7 割を占める現状がある。特にこういう方々の行動も含め、もう一度モニタリングするのが妥当であると私個人としても考える。これらの点を条件とした上で承認の確認に移りたい。大きな意見がなければ承認の確認をしたいがいかがか。

知床財団 寺山

事業提案されている内容については当初の内容通りであり、管理されていることから進めて良いと思う。その後の体制として、知床五湖冬期適正利用協議会が冬の全体的な検討の場になるというのも一つの方向であり、五湖というブランドで展開したいというのも現実である。そういう意味では、夏の制度である知床五湖の利用のあり方協議会と一緒に検討できれば、現場としてはわかりやすいのではないか。それも含めて検討されてはどうか。

グループごとにルートの調整をしているという発言があったが、実際は何回あって、誰が言い出して、誰が決定し、誰が動かすかという体制が見えていない。承認後に実施者だけでなく、誰がルールの実行状況をモニタリングするのかを明確にし、進めて頂きたい。

敷田座長

貴重な意見に感謝する。今の発言の 2 点の内、1 点目については、知床五湖の利用のあり方協議会に移して良いのではということであった。これについては関係者の承認があれば移し、体制を組み替えて良いと思う。

2 点目についてはご指摘の通りである。先程の知床沼部会についても事務局あてには山岳会からの報告がされていたという事があった。

個別部会からの報告に正式に移行し、毎回報告することを条件として承認の手続きを行いたい。事務局はいかがか。

事務局 環境省 前田

個別部会からの報告に移ることについては、問題ない。石井氏の説明時に、個別部会からの報告は年 1 回で良いのではないかという意見もあったためその点は検討してもよいと考える。モニタリングの具体的な方法論については、この場でもご意見頂ければと思うが、本来的にはこれまで通り知床五湖冬期適正利用協議会の中で議論していけばよいことだと考える。

中川委員

私も同感であり、モニタリングを継続していくことは重要である。しかし、項目や指標がはっきりしていなければ、事業者もどういうモニタリングをして、どういう報告をすれば良いか判らないのではないか。事業を実施しながらモニタリングできるような項目、指標を専門家の先生と相談して決められれば良い。

敷田座長

過度な負担にならないようなモニタリングを、専門家と相談して頂くことが条件になると思う。協議の場については知床五湖冬期適正利用協議会でよろしいか。知床五湖の利用のあり方協議会との整理というのは後程再調整をして頂けば良い。

事務局 環境省 石川

協議の場について、知床五湖の利用のあり方協議会は五湖に限定しているため、議論の場としては狭いと感じる。今迄のご発言の趣旨を踏まえると、この適正利用・エコツアーリズム検討会議がその場にふさわしいのではないか。また、検討部会の今後の取扱いについては、要領の中で継続か解散かの2つが想定されると書いてある。モニタリングしていくということであれば、引き続き検討部会の中で、専門家の意見も聞きながら定期的に報告するという方法が良いと考える。

敷田座長

「継続」とは、部会継続でモニタリングという選択ということか。

事務局 環境省 石川

それが良いのではないか。

敷田座長

部会を継続しモニタリングを続ける。その中でブランドの見直しも含めて検討して頂く。モニタリング項目については、負担にならない範囲内で改めて相談するという条件で承認をさせて頂きたい。意見はあるか。

羅臼山岳会 佐々木

知床沼ではモニタリングを継続している。当初実施した際は石川委員に参加頂けず、知床博物館の内田学芸員に同行して植生調査を行った。その後は我々で一定方向から毎年写真撮影し、事務局にあげて部会検討、報告するというシステムにしていた。先程の発言のとおり報告は毎度必要ないと言われていた。

我々羅臼山岳会という小さなグループが予算もなく手掛け、提案した後にモニタリングを10年間続けなければならない。我々は手弁当で行っている。観光協会等の大組織であればモニタリング等の継続も可能かもしれない。しかし、実際この運営の仕方を含めて我々で提案を続けて行くことは不可能である。これは私個人ではなく山岳会としての意見である。

毎年同じ時期に現場に行き、植生を調査し、実際に人が入っているかどうかを観察して

写真を撮り報告する。山に行ったついでにできるであろうという感覚であったと思うが、世界遺産当初から推測されていた利用者の増加はなかった。現在ではますます減少しており、年間 10～15 人程度の利用者しかいない。ハイマツ帯が繁茂しており、知床沼に往復 1 日でようやく行ける程度となり、知床岳まではさらに日数を要する。運営方法等についても配慮頂きたい。

敷田座長

モニタリングの問題点を指摘頂いた。その点については非常に重要であり、本件では知床五湖の問題を扱っている愛甲委員から関連した意見を求めたい。

愛甲委員

五湖の冬期利用については、知床五湖冬期適正利用協議会という場がすでにある。それと今の検討部会とその後の報告をしてもらう部会、この協議会との関係はどう整理すれば良いか。適正利用協議会がその部会になるという理解で良いか。

事務局 環境省 前田

石川の発言にあった検討部会というのは、協議会を指しているものである。

敷田座長

現状維持するということであり変わらない。

知床財団 寺山

実施者がモニタリングして価値を担保するという仕組みは破綻すると思う。この会議で発案したものに對し、その価値が担保されているかどうかは、行政や何らかのシステムの担保するという仕組みを持たなければいけない。

敷田座長

五湖の冬期利用の問題についての発言に限っていただきたい。

知床財団 寺山

モニタリングの実施体制が、実施者自ら行う体制では厳しい。五湖の具体的な例でいえば、ルートから外した方が良いという判断を、実施者同士で協議して決めるというような体制ではなく、うまく行えているかを第三者が見守っているという形に移行しなければ、モニタリング体制にはならないのではないか。

敷田座長

モニタリングについての意見を頂いた。議論する必要があるが、時間の関係上冬期利用の話へ戻す。山岳会にやっけて頂いている植生のモニタリングと、利用者のモニタリングは基本的に違う話しである。利用者の利用動向を事業実施のなかで見て頂きたいというのが基本である。この点を理解頂いた上、承認の手続きに入りたい。

知床斜里町観光協会 上野

是非承認頂きたい。モニタリングについては、関係当事者がモニタリングシステムを作って実行するというシステムではなく、協議会が担保するような形の方が良いのではという案であると認識した。確かに我々観光協会が作れば、観光協会にとって都合の良いモニタリングとなる可能性もある。これから継続的にモニタリングするシステムは続いていくと思うが、この協議会かどこかにそういう部会のようなものを作り、例えば統計的な専門である愛甲委員に座長になって頂く。そこで各部門に特化したモニタリングのあり方を作って実行するというのはどうか。

敷田座長

その件に関しては十分承知しているが、モニタリングは全ての提案や事業に関わる問題であり、改めて議論させて頂きたい。私は今までの過去 3 年間の報告が観光協会に都合の良いモニタリング結果だとは思わない。十分報告をして頂き、内容は客観性があると思っている。この事業で可能な範囲でモニタリングの実施をお願いしている。それ以上のモニタリングについては、この場を利用して関係者が協働して実現するというのが基本であり、自分達ができないから全てできないというのではなく、他の組織と協力して可能にするという方針で臨んで頂きたい。

事務局 環境省 安田

知床五湖冬期適正利用協議会において、具体的に議論して頂く予定である。モニタリングには事業それぞれに特色がある。モニタリングについても、知床五湖冬期適正利用協議会の中で議論し、そこで担保して頂く形が良いのではないか。

敷田座長

綺麗に整理して頂き感謝する。モニタリングの話とは切り離して進めたい。

小林委員

利用者が増加している中でどう静寂性を保つかが課題として上がっている。例えば、ガイドが GPS でルートをトレッキングしてデータ化する。ガイド自身がデータ化したものを利用者に提供するというのはどうか。データとして客観化を図ればお客様サービスにもなる。どこを歩いてどんな状況で実施したかという記録も取れる。こういった工夫をしては

どうか。即ちお客様サービスと同時に、自分達にとっての価値も高める仕組みを、モニタリングを通じて実証する仕組みを作ってはどうかという提案である。

敷田座長

技術の進歩で解決できる部分は非常に大きい。それも含め、専門家と相談して頂きモニタリングを最終的に続けて頂ければと思う。

特になければ承認のプロセスに移りたい。

いくつか条件が付いた。基本的にはブランドの問題、モニタリングの問題、冬期の雇用確保も含めたこれからの事業計画の問題、それから最終的に五湖だけではない資源開発検討の余地を残して頂きたいという条件を付加した上で承認をしたい。異議の無い方は挙手をお願いします。

特に大きな異議がある方はいないので承認したい。条件付きの承認となったが、今後も観光協会と関連の皆様は協力願う。

以上で(1)の議題を終える。議事の順番から行くと(2) 先端部地区利用の心得の点検検討部会であるが、この(2)は(4) 赤岩地区昆布ツアー一部会との関連が強い議案であるので、(3) 外国人旅行者向け情報発信の強化部会を先に進め、次に(4)と(2)を合わせて進めたい。事務局はいかがか。

事務局 環境省 石川

承知した。

敷田座長

順番が変わって申し訳ない。(3)外国人旅行者向け情報発信の強化部会について知床財団から報告と説明をお願いします。

【議題1. 実施部会からの報告(3)外国人旅行者向け情報発信の強化部会(報告)】

知床財団 寺山

「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会報告について説明(資料1-3)

敷田座長

内容に関して意見・質問はあるか。

小林委員

バックカントリー情報の発信で2点ご提案頂いた。北アルプスでは三県合同で遭難状況等を落とし込んだマップを作成し登山者に配布している。提案して頂いた2点とその情報

の3点を上手くコンバインドして情報提供すると利便性が高いと思うため検討頂きたい。

敷田座長

他の事例に基づく優れたアドバイスである。検討頂きたい。他に意見はあるか。

知床ガイド協議会 岡崎

この問題はこの会議で検討すべき案件なのか。行政と話した方が良いのではないか。

敷田座長

どの問題についてか。

知床ガイド協議会 岡崎

外国人旅行者情報発信強化についてである。外国人旅行者に対する情報発信は必要なことと理解するが、この会議の趣旨に合っているのかという基本的な疑問がある。

敷田座長

部会設置承認時に議論しているが再度説明させて頂く。外国人旅行者は、現在宿泊者だけでも4万3000人と把握している。全体の利用者の180万人と比較すると多くはないが、利用者として同じ権利・立場にある方々である。今までの管理手法が素晴らしければ素晴らしいほど、4万3000人の方に共有してもらわなければ、増加に伴い構築してきたものが無駄になるので、情報発信は非常に重要な案件である。また、これは行政の問題であると同時に、日々観光客の皆様とやりとりがある方、利用者の方とお付き合いがある方にとっても重要な問題である。単独での問題解決というよりも、現場も含めた全体として解決をする必要がある。よってこの会議の協働の場で解決することを、提案している。

知床ガイド協議会 岡崎

大切な問題であることは認識している。承知した。

敷田座長

五湖で実施しているレクチャーの情報提供は、行政のみではなく関係者の皆様と協働で行っている。現在は日本人を対象としたレクチャーになっている。説明言語は日本語で、ビデオだけが一部多言語になっている。同じような仕組みの構築と考えて頂きたい。

知床ガイド協議会 岡崎

承知した。

敷田座長

私の個人的な意見を述べる。現在の五湖のレクチャーを入口で全員にできるような体制になることが、知床遺産地域の利用価値に対する納得と価値を高める。それを推進するこのプログラムは非常に重要だと感じる。ただし、そのことと行政の支援があるか無いかというのは別の問題である。もちろん、行政の支援は当然あった方がよい。

知床斜里町観光協会 上野

マップの作成やネット上で展開をする際の財政的な担保はどのようになるのか。

敷田座長

知床財団から回答願う。これまでの経費はどの程度であるか。

知床財団 寺山

経費に関しては、昨年は完全に独自で行ってきた。積立資金から 200 万程度の予算で、サイトとマップの構築及び人件費を捻出して取り組んだ。来年分の予算を確保できるかは未確定であり、我々のできる範囲で続けるという状態である。

敷田座長

財政的には展望の無い独自事業として実施しているということである。内容が非常に良いということであれば、どなたが協力・参画されてもよいと思う。例えば、上野氏が取り組んでおられる大学院大学は、グローバル対応が原則である。また大学院大学の趣旨を説明する中に、知床の価値の説明が入ってくると考えられる。そのことから、大学院大学に費用負担をして頂く方法も無い訳ではないと思う。

特に大きな問題が無ければ報告を了承し休憩を取る。後半は(4)赤岩地区昆布ツアー一部会と(2)先端部地区利用の心得の点検検討部会からスタートしたい。

休憩

敷田座長

審議を再開する。議題の(2)と(4)については、進行の関係上(4)から始める。提案者の知床羅臼町観光協会から説明願う。

【議題 1. 実施部会からの報告（4）赤岩地区昆布ツアー一部会（審査）】

知床羅臼町観光協会 池上

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」実施状況等について説明（資料1-4-1）

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」参加者アンケート結果について説明（資料1-4-2）

有識者からのレポート報告について説明（資料1-4-3）

知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー地域意見交換会議事概要について説明（資料1-4-4）

知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー実施方針について説明（資料1-4-5）

知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー実施内容について説明（資料1-4-6）

敷田座長

羅臼町からの補足はあるか。ないということで議論に入る。

羅臼・赤岩地区の昆布ツアーについて3年間のモニター期間が終了したため、新たに正式なツアーとして実施したいという提案である。五湖の冬期の問題と同じく、これまで積み上げたモニター結果と今後の計画に基づき、内容について審議を行い、承認するかどうかを本日決定したい。意見、質問はあるか。

なお、先程からモニタリングについての発言が続いているが、この案件においても別途議論をする場を設けたいと思う。この議題に集中して頂きたい。昆布ツアーの実施場所が先端部であるかどうかは微妙な問題であるが、関連して議論することになっているため、承認の際に決定した利用の心得との整合性の問題について、(2)の議題について事務局に説明願う。

【議題1. 実施部会からの報告（2）先端部地区利用の心得の点検検討部会（審査）】

事務局 環境省 守

平成28年度先端部地区利用の心得点検 検討部会 実施報告について説明（資料1-2-1）

知床国立公園半島先端部地区利用の心得（改訂案）について（資料1-2-2）

敷田座長

今回の改訂は文言の修正であり内容の変更はないということ、皆さんで共有して良いか。

事務局 環境省 守

良い。

敷田座長

(4)赤岩地区昆布ツアー一部会（審査）に話を戻して議論したい。提案者の羅臼町観光協会より、過去3年間の報告、モニタリング結果について概要を説明いただいた。来年度以降の計画を含めた内容で、承認するかどうかを皆さんに伺う。承認には、これまでの実績を踏まえた条件付き承認と、無条件の承認という選択肢がある。その内容については議論を進めた上で決めたい。意見や質問はあるか。

斜里山岳会 遠山

平成 28 年度のモニターツアーは、どうして 1 回しか実施されなかったのか。

先端部の利用の内、動力船の上陸は教育、研究について個別に判断するという事になっており、それを踏まえた上で環境省、林野庁から植生調査モニターの指導をするということになっている。資料 1-4-4 の地域意見交換会での議事概要を確認すると、様々な問題はあるけれども最終的には賛同する。反対ではないように書かれている。環境省、林野庁、知床財団でも同じ考えであると認識して良いか。

羅臼側では、岬の先端部より手前にも昆布番屋はたくさんある。そこで実施することはできないのか。岬まで行かなくてもツアーは実施可能なのではないかと疑問に思う。

敷田座長

質問が 3 つあった。提案者以外への確認が 2 つ目であったため、その点については担当者から答えても良い。答えられる範囲で回答願う。3 つ目の質問については、承認の際に議論していることであり、それをリピートしていただいても結構である。

知床羅臼町観光協会 池上

平成 28 年度のツアー実施が 1 回となった理由は、変わらずに募集をしていたにも関わらず集客が催行人数に達せずに実施できなかった。そういう状況を脱するためには、有識者からの助言を頂く機会が必要であると認識しお招きしてツアーを実施した。

本ツアーについて各関係機関が承認して推奨、後押ししているのかどうかという点だが、意見交換会の議事概要にあるように、参加していただいた皆様からは、このツアーをこの内容の通りに実施するのであれば是非やるべきであるというように意見がまとまっている。もし違う意見があれば、改めて皆様に伺う。

岬より手前の昆布番屋を見ることで、本ツアーの目的は達成できるのではないかという意見について回答する。本ツアーの提案が部会設置を認められた際にも説明させていただいているが、提案書の背景にもあるように、そこに行かなければいけない様々な理由がある。赤岩地区に大勢の方が移住した理由、先端部のペキンの鼻より向こう側の天候の変化、昆布が良く採れるということ、そこでの暮らし、今もお昆布漁師が動力船でその地域に行っていること、現在も 2 軒の方がそこで活動しているということ。赤岩でかつてから使われていた番屋を産業遺産として見せることで、歴史を深く伝えられると考えている。そこでしかできない体験や、そこでしか伝えられない経験があるため、手前の昆布漁を見せるということでは達成できないと考える。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

補足する。ご指摘のとおり、岬の手前にも番屋はある。しかし、送電線が通って浜ならしのための重機が入っているような場所で、このツアーの目的は達成できない。動力船に

ついでに様々な意見があるが、羅臼の昆布漁は現在も全 300 隻程度の船の 7、8 割が赤岩で行われているという事実がある。昆布が一番採れる場所は現在でも変わらず先端部赤岩地区である。昔は現在のような速度の速い船が無かった。ディーゼルの単気筒が 3 気筒程度、5 馬力～7 馬力程度のエンジンで片道 5 時間～7 時間もかかってしまった。そのようなことから移住が進んだという歴史がある。岬より手前に残っている番屋というのは、ほとんど朽ちて原型を留めていない。相泊近辺、観音岩よりこちらの側には無いというのが現状である。現在は、私が所有する番屋の他に現役で赤岩の番屋に行っている 2 軒以外に番屋はない。相泊等はテトラポットだらけとなっている。本ツアーは世界遺産として自然の景観が残っている場所で行いたいということを皆様に理解頂きたい。

遠山氏の指摘があったが、本年度のツアー遂行は 1 回となってしまった。これは本ツアーに魅力を感じられないという結果である。名目等に縛りがあるためにこのような結果になった。

知床五湖においても、レクチャーを 1 時間も受けなければ入ることができない。そのようなことでは誰も行かなくなる。そういうことも行かない理由になっている。羅臼町民として今後は考えていかなくてはならない。経済が動かなければ自然保護も何もできない。集客のための宣伝や誘致についても様々な問題があったのではないかと。簡単に行けるとは言わず複雑になっている。

今後、本ツアーが仮に承認されたとしても、採算を合わせてやっていくことは大きな問題となる。

敷田座長

昆布漁の 7～8 割が赤岩地区で行われているという発言があったが、それは事実なのか。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

天然物はそうである。

敷田座長

天然物昆布の 7～8 割が赤岩地区で採られているということか。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

季節変動はある。昆布が削られたりする等の流氷被害が出ることもある。そういう場合は、羅臼町春日町側に集中することもある。それでも先端部へ行く人は必ず毎年いる。

敷田座長

昆布漁の 7～8 割というのは季節変動もあるということであり、実際にはデータを見てから判断することになる。

羅臼町に近い海岸にはテトラポット等の人工物があることは、皆様も承知の通り事実である。また、承認についての縛りが多いという発言であったが、承認の際にツアー形態についての条件は付いていない。この発言は訂正して頂きたい。

事務局 環境省 石川

遠山氏より本ツアーについての環境省の考えについて質問があったため簡潔に答える。

「利用の心得」の改訂についての報告が環境省の考えである。「利用の心得」の改訂に係る検討は、先端部の利用についてどのように考えているのかを広く関係者の皆様に意見を聞き、今後の方向性を定めるところから始まった。検討の過程で様々な意見があったが、「利用の心得」の内容は変えない方が良いという合意がされた。

一方で本ツアーは、本会議の制度を使って提案していただいたものである。本会議で提案され、条件付きであっても承認がされたものについては、行政側ではできる限りの支援をするということになっている。そのため原生感の調査等をするなどして支援を行っている。

敷田座長

環境省の考えは本検討会議の趣旨と一致している。互いに手伝える部分は手伝う。そして行政、行政以外の分け隔てはせず、協力できる関係者が積極的に支援するという戦略の基本的なアプローチである。ただし、組織的に何かを承認する仕組みではない。また法律や根拠によって許認可しているわけではない。エコツーリズム戦略という、検討会議での合意に基づいた整理であり、承知して頂きたい。

中川委員

平成28年度に本ツアーは1回のみで開催であり、一般の参加は無かったということである。これまで通りに募集をしてきたのにも関わらず、最小催行人数に達しないのであれば検討の必要がある。3年目となり、ある程度は口コミで広がり集客に結びつくのではないかと考えていた。参加者のアンケートから60代～70代の参加者が多く、関心も高いようである。小型船を利用すると天候の制約もあり、時間もかかり、体力もいる。上陸するために船外機付きの小型船で直接上陸することは、参加しにくい面もあるのではないかと。

敷田座長

具体的な手段が制約となって参加しにくくなっているのではないかとという意見である。

知床羅臼町観光協会 池上

ツアーに予約しても催行される保証がないところが問題になっていると感じている。小型船での移動については、これまでそういう視点で検討したことが無かったため不明であ

る。旅行商品として本ツアーが扱われにくいという点は、我々の課題であると認識している。3年間のモニターツアーとして試験的にやっていることを営業する際に説明する。来年はできるのか、再来年はできるのかというように、旅行会社にとっては不安定な要素のあるツアーを取り扱うことはある意味賭けになってしまう。さらに、天候にも左右されるというところで旅行会社の商品として取り扱われなかったという事も大きな要因の一つである。

敷田座長

その点については、事実が重要なので、旅行会社とのやり取りの記録が残っていれば後程提示して頂きたい。

小林委員

前回会議の議事録は皆様に配布済みのはずであるが、私から質問した経緯がある。本ツアーのアンケート調査結果から、先端部を見てみたいという利用、体験型の利用、歴史を学びたいという利用、それぞれのニーズによるタイプは違うという話をした。オペレーションの問題をどうするのか、敷田座長からはマーケティングのターゲットをどうするのかという質問がなされている。先程の説明の中にその答えは無いように見受けられる。

敷田座長

知床羅臼町観光協会からは、前回会議の議事録を確認した上で回答してほしい。

斜里山岳会 遠山

資料 1-4-5 の実施方針に、人数の制限 600 名、集客目標 400 名とある。この数字は過去 3 年間の実績からみた単年度での人数という理解で良いか。仮に単年度であるならば、これまでの実績から考えると、達成可能な数字であるのかが疑問である。

敷田座長

遠山氏からの質問は、この数字の目標が 3 年間なのか 1 年間なのかということである。また、この数字の根拠を教えてほしいということである。

知床羅臼町観光協会 池上

集客目標人数の 400 名は単年度での目標設定数値となっている。人数の制限から考えると 600 名を限度と考えているわけであるが、600 名も入ると印象を持たれることは本意である。目標人数という書き方が良くなかった。最大集客人数として 400 名を超えることは無いと考えている。

敷田座長

単年度目標であるのか。

知床羅臼町観光協会 池上

単年度の目標である。

敷田座長

集客というのは事業営業上の目標ということか。

知床羅臼町観光協会 池上

そうである。

敷田座長

人数の制限というのは、物理的に1日1回、船の定員10名で2隻、30日間催行できたとして600名ということで良いか。

知床羅臼町観光協会 池上

そうである。

敷田座長

30日の根拠を教えていただければ、遠山氏からの質問の主旨に合う。

知床羅臼町観光協会 池上

昆布漁は概ね7月15日から8月15日までである。昆布の実入りにより開始が1週間程度遅れることもあり、その年によっては7月20日や7月22日より始まることもある。8月15日頃以降は漁をする方は殆どいない。そのため最大でも30日の実施が根拠となっている。

敷田座長

承知した。これは資料の書き方の問題である。一日の最大催行人数20名に変更はない。仮に天候が素晴らしく良く、条件が揃った場合は30日間の催行が可能だということである。

斜里山岳会 遠山

時化等が無いという前提で算定されているという理解で良いか。そんなことがあり得るのか。

敷田座長

あり得るか、あり得ないかの問題ではない。最大限可能であれば、そうなるということなので、物理的な上限として理解すればよい。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

池上氏の補足をする。

敷田座長

今の説明で解決している。関連する多様な意見を聞きたい。30日間晴れが続くという話ではなく、最大限可能だということである。

知床財団 寺山

遠山氏より質問があったため、知床財団の本ツアーについての考えを述べる。部会で説明された実施方針のとおり実施されるのであれば良いツアーであると考えている。ただし、意見交換会の議事録にあるように、先端部の利用のあり方についての本格的な議論は必要であるという認識である。特にモニタリング等の話を含めたしっかりとしたバックアップ体制の中で、こういう特別な利用をブランド化して売っていくというのが本筋である。本質的には利用調整地区のようなベースのシステムがあった上で議論されるべきである。

敷田座長

単独で実施するというのではなく、枠組みがあった上でブランド化も意識しながら商品化を進めていくべきという意見である。

石川委員

本実施部会に対してというよりも全体に対しての意見である。このツアーが試行で始まったのは2014年であった。科学委員会の委員より、このような一つの特例を認めると、今後多くの特例が出てきた際に歯止めが必要になるという話が出ていた。また、教育的なツアーとして適切であったかどうかを把握する必要があるだろうという議論もあった。それは実施部会からの説明で理解した。

歯止めについてはここで議論することではないと思う。しかし、本ツアーについて承認できるかと言われれば、歯止めの無い状態では非常に承認がしづらい。寺山氏の意見とも共通する。承認は棄権させて頂くことになると思う。

資料 1-4-4 意見交換会の議事概要について、地域の意見とはいっても関係者や実施団体に意見を求めたものという説明があった。地域住民の意見が全体的に集約されているわけではないため、このツアーに対して羅臼町民がどう思っているかは掴めていないのではないか。

資料 1-4-5 モニタリングで、原生感の状況についてのモニタリングは実施しないとなっ

ている。私は明らかにおかしいと思う。これまでのアンケートでは、原生感の状況について、非常に少数ではあるが原生感が損なわれるという意見があったはずである。少数なため参考資料とするということであるが、集客目標が 400 名で、これまでより遥かに多い人数を目標としていることから、原生感の状況についてモニタリングは行うべき。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

石川委員より原生感についての意見があったが、人が入った歴史があるということを理解した上の発言なのか。我々羅臼側の人間としては、人が入って守ってきた歴史があるということを何度も繰り返して言っている。こういうものは進めていかなければならない。20年、30年と同じ議論をしてどうするのか。知床五湖などは人が集まるため話が進む。モニターツアーの実施がたった1度だけであった屈辱や切なさがわかるだろうか。遊びでやっているわけではない。自然を守ります、こんなことを守りますというのも良いが、経済が動かないで自然保護も野生保護もできない。そんなことは知床財団でもわかっているはず。この会議ではこんな話ばかりである。マスコミにはきちんと書いてほしい。

敷田座長

私もその点には共感するが、それは長谷川氏の個人的感情であり、この会議の場で発言をする内容ではない。そのため皆さんも参考意見として聞いてほしい。検討会議は関係者の思いや気持ちを聞く機会にもなるが、それ以上にここは事実に基づいた意見を交換する場である。冷たい言い方かもしれないが、個人の主張や主義も含めた説明は、会議の休憩時間にやって頂きたい。

知床羅臼町観光協会 池上

地域意見交換会について説明する。議事概要に記載しているとおり、参加者は16名で結果的に関係者のみの参加であった。案内は30軒程度に出していた。一般広報とも提携すべきかとも思ったが、本ツアーの経緯を全く知らない人が来て話しを聞いても、理解できないのではないかという思いがあった。できる限り絞った中で様々な漁業者の部会や組合に声掛けを行い、違う分野の行政関係機関にも声掛けを行ったが、結果的に集まったのは16名であった。何も知らない人に一から話をして意見を聞くことも必要だったのかもしれない。広く一般町民から話を聞く機会を持たなかったこと、広報に載せなかった点は反省点ではある。多くの方に話を聞きたいという視点で案内を出した結果、集まったのは関係者だけであったということである。

敷田座長

非常にわかりやすく簡潔な説明であった。石川委員いかがか。

石川委員

承知した。ただし引き続き周知する努力は続けて頂きたい。

知床羅臼町観光協会 池上

承知した。

敷田座長

これまでのやり取りでは、単純な承認では関係者の無条件の納得が得られないことがはっきりしている。ただし、だから中止という事ではなく、最終的な決定段階にはないということである。もう一度町内の方に、ツアーの実施について広く意見を聞いて頂きたい。その上であれば、必要性の高さの判断ができる。

続けて2点目を説明願う。

知床羅臼町観光協会 池上

原生感の状況についてモニタリングを実施しないとしているが、これは主催者が監修者として実施するのが困難だという判断にある。利用が増えたことによる影響について、環境省にモニタリングを協力頂きたい。

敷田座長

今後改善できる点であり関係者に協力願う。

本テーマに関して意見、質問やコメントはないか。この場で意見が対立することも想定されるが、できるだけご自身の意見を伝えてほしい。そして御自身の主張に会場からの共感を得て頂きたい。意見に共感を得たものが承認を得る。それがこの場の明確な承認条件である。

愛甲委員

原生感の状況についてのアンケートは、事業者が実施するというのではなく、環境省で検討して頂きたい。前回の会議でも私から意見を言ったはずだが、アンケートを取れた人数が7名というのではよし悪しの判断もできない。長谷川氏の意見での原生的であるかどうかは別の話である。

先端部利用の心得の改定は、今回文言修正だけということであるが、将来的に先端部地区の利用のあり方全般を議論する上でも重要である。赤岩に関わらず、先端部でのトレッキング利用者に引き続き意見を聞くようなことはやって頂きたい。

利用の心得についてはWeb等を使った情報発信の強化を行うということだが、例えばWebの情報を見た方にコメントを残して頂くというような工夫をしてはどうか。トレッキング利用者は人数も少数であるため聞き取りが困難である。他の地区のようにアンケートを配

って回収するというわけにはいかない。手法も含めて検討して頂きたい。

敷田座長

私から捕捉する。原生感については長谷川氏から主張があったとおり、町民の方は独特の意見や感情を持っている。一方で先行的に岬への道を利用してきたトレッカーも、利用者として当然「思い」を持っている。こうした先行利用者の主張を排除して、新しい利用を優先するのは、先行利用者の権利という点から見てもアンフェアであると思う。モニタリングは継続して頂きたい。環境省でも極力支援を願いたい。

事務局 環境省 石川

効率的な調査の方法等について、愛甲委員などと相談しながら検討していきたい。

敷田座長

前向きな発言に感謝する。

知床羅臼町観光協会 池上

今後のツアーの提案をどのようにしていくのか、ここは議論する場では無いという話があった。提案者側からの願いがある。あくまでも利用の心得やこの仕組みの中で、本ツアーが実施して行く価値のあるものなのかを審議頂きたい。

今後続くツアーについては、またその時、そのツアーがどれだけ価値があるもので知床にとって必要なものを改めて議論して頂きたい。

敷田座長

価値の問題について言及だが、価値とは一般的に経済的価値とそれ以外の価値というように理解をしている。まず経済的価値は、雇用の創出などは関係者の利益の創出につながるである。今回はそのようなデータが提出されていないため、過去に提出されたデータにより議論する。一方、本ツアー独特の価値については、先程池上氏から説明にあったとおり、町民にとって思い入れの深い場所である赤岩が、特別な場所であるということを皆様と共有して頂きたい。それは経済的な価値では測ることができないものであり、その説明ができれば良い。他に意見はないか。

科学委員会 桜井委員長

海の環境について述べる。知床半島の海域については、残念ながら調査があまり入っていない。潮間帯の海藻が生えている場所、潮間帯の様々な生物がいる場所では、10年に一度程度しか調査がされていない。10年前程の調査の際にわかったことは、斜里側突端部と羅臼側とでは生物の種類が違うということ。かつてここで昆布を採っていたということ

は、ここが生物にとって良い環境であった科学的な根拠があるはずである。科学委員会の立場からは、むしろそういうバックボーンとしてのデータを取らなければ説明がつかないと考える。何故そこに人が住んで昆布での施業ができたかという、それにはやはり歴史があるわけであり、温暖化での変化を確認していくという意味でも、非常に価値のある場所である。その為には科学的な裏付けを取らなければ今の議論は進まない。そういう意味からも科学委員会として是非検討したい。

敷田座長

科学委員会としても、このテーマについて今後検討したいということである。桜井委員長の発言のとおり、基本的な根拠が示されていないと共有できず、議論が平行線をたどることが予想されるため議論を先に進める。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

一言言いたい。

敷田座長

議論を先に進めたい。承知願う。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

桜井委員長に一言だけ言いたい。どうして科学委員会で先端部の調査をやらなかったのか。

敷田座長

繰り返すが、議論を先に進めたい。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

科学委員会ではどうして先端部で調査を行わなかったのか。自分は子供の頃からここに住んでおり、先端部でも羅臼側とウトロ側では植生が違うことはわかっている。花咲ガニが生息するのも唯一赤岩だけである。科学委員会が調査に入らなかったこと自体がおかしいのではないか。

科学委員会 桜井委員長

調査をしていないわけではない。3年間は調査を行い調査結果が出ている。その後10年が経過しているため、もう一度行った方が良いという意味である。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

是非やって頂きたい。

知床羅臼町観光協会 池上

小林委員からの質問に答える。アンケート結果による説明が不足していた。本ツアーへの参加理由では、昆布の歴史を学びたかった、知床について学びたかった、赤岩地区に上陸したかったというように大きく分かれた。今後本ツアーを売り込んでいく上で、これらを結果として融合させていきたい。知床岬はイコール灯台というイメージになっているところが原因である。本日回収資料として配布した登記済権利書の裏面を見て頂きたい。これは法務局の資料となっているが、赤岩地区とよんでいる場所、399番地長谷川番屋があるところは住所でいうと知床岬 399番地である。このことから、知床岬とは全体のことを指すのであり、イコール知床灯台ではないということがわかる。知床岬を広くとらえ、歴史も伝えることで新たな知床岬というものを伝えていきたい。今後は、本ツアーがどこに行くツアーなのかというところでは、赤岩の長谷川番屋という言葉を使うことがあるが、知床岬 399番地を訪ねるというような書き方をする中で、お客様との齟齬を募集段階から埋めて、岬に入りたいと思うお客様に来ていただき昆布の勉強をして頂きたい。実際に2日間の中で、その考え方を融合して新たな認識を持って帰っていただける機会にしたい。

小林委員

承知した。前回の質疑の答えを用意していただければ判断できなかったため再度質問した。

前回会議の際にも、地域内の合意形成ができていないという話が何度も出ていた。この部分がクリアでは無いという話が他の委員からも出ていた。しかし、これは提案者の責任ではない。むしろ、環境省を含めたガバメント側の責任である。

この場所をどういう形で合意形成を図りながらやっていくのか。先端部の利用、五湖の利用も含めた新たな利用が次々として出てきている。それぞれを良い悪いということではなく、全体でもう一度見直してはどうか。

先端部は知床羅臼町観光協会からの提案があったことで、知床先端部のあり方について我々が見落としとしてところに光を当てて頂いた。しかし、これまでの議論の経緯があり、先端部に価値づけはされている。一方で、冬期の五湖利用も新たに出てきた。今後も新しい利用が出てくるであろう。「顔」に例えるならば、整合性を持って知床のブランディングをしているつもりであるが、実はオカメのような顔になってしまっている可能性がある。外から見た時に、個々の「目鼻」、各区域で良いと判断しても、全体でみると整合性が取れていないということになりかねないはしないか。

今回の議論では、逆に我々が問題を突きつけられたという認識を持っている。私は条件つきでの提案を受け入れたい。3年間はそのまま続けて頂きたい。3年間の間に知床全体の利用をどうしていくのかということ、我々側でも一度リセットして本気で考えなければ

いけない。このまま個々の議論を続けていくのではなく、本当に知床の魅力は高まるのか、魅力を守れるのか。これまでの50年の価値を次の100年に繋いで行くためにはどうしたら良いのか、そういう観点の議論が必要である。

敷田座長

小林委員の意見が発言の見本である。皆様も良く理解できたと思う。非常に共感できる内容であった。意見は違うが共感できる、という点がポイントである。他者の発言をリスペクトした上で発言していただきたい。

間野委員

私は2年間、本会議の委員から抜けていた。3年前の検討の際には、推進する価値があるという意見を述べていた。3年が経過して、今回の結果についての様々な意見や議論、結果報告書も見せていただいた。様々な問題もある。この3年間の試行中に実際に参加された方というのは、洞察を持って考えられた方であり別格であるということなのかもしれない。

しかし、岬地区というのは、原生的自然、手つかずの場所というような単純な場所ではなく、長い人間の生活を含む非常に深い歴史がある。そこで現在も人が暮らしており、しかもそこは非常に豊かな場所である。そして地理的にも、生物生態的にも極めてリーズナブルである。人が豊かに暮らしていることをわかりやすく示している。背後に広がる景観も含め、非常に雄大でその豊かさが現在でも維持されており、世界の注目を浴びている。そういう価値をわかりやすく示した非常に数少ない場所である。

来られた方が、このツアーに参加しなければできなかった経験ができ、そのことに触れて、新たな知床、羅臼の街に対する認識を改める。羅臼の昆布について勉強したい。改めて見直して帰りに海産物を買って帰りたくなるような、そういう素晴らしいことである。

それは単純に羅臼の経済だけに対してだけではなく、本来世界遺産での体験、ツアーを通じて、自然と人との双方のバランスが取れているという認識を、もう一度提供することができる場所である。

経済的に成り立つか、目的である教育として成り立つかということについては、時間があればまた述べたい。様々な問題、課題はあるが、ここまでの3年間の試行を取り上げても、教育的にも素晴らしい成果を上げたと思う。

もう一つの課題は経済の部分である。集客目標の上限を400人というプランで提案されているが、それは実現可能な目標なのか。長谷川氏の発言でも物理的には悪天候があるのであり得ないという話であった。それでは、どのくらいであれば、採算が合うのかという試算をしてはどうか。例えば、実際には100人来てくれれば採算が合う。50人でも大丈夫だというようなことになれば、そのプランを示されることで、これまで心配されていることが解消されるのではないか。

原生感を台無しにするということに対しては、50人が30日の間に数回だけということに

なれば、現行の入込みから見ると少数であるという説得力のある提案もできるのではないか。

ただし、利用の心得の下だけで捉えてしまうと、明らかに相矛盾するようなやり方である。例外として今後本ツアーを維持するというのは限界にきている。今後も継続していく際には、ツアーの記録的な価値というものを最大化して継続できるような下ごしらえが必要である。それには環境省等の行政側がきちんとオーソライズするべき道筋ではないのかと考える。

敷田座長

ありがとうございました。皆様の意見を間野委員に整理していただき、また御自身の意見をいただいた。

特に利用の心得の問題では、現在関係者の皆様の多数意見は改定に踏み切れていないということである。しかし、今後も踏み切れないということではない。むしろこれは全体として改めて考えなければいけない問題である。

利用の心得の策定よりは後になるが、私達が参照しながら議論をしている「知床世界自然遺産地域管理計画」の中にもそのことは触れられている。その中の短い文面を紹介する。「知床岬地区の利用については観光目的の上陸の抑制を徹底強化する。」とシンプルに書かれている。一方、スノーモービルや航空機の着陸利用規制、騒音の問題等も同じように規制されているが、実際には行われているという非常に矛盾した管理計画となっている。そのため、管理計画の改定を含めて、全体で統一に取り組みなければいけないことである。(ただし、本日は赤岩ツアーの議論であり) この場で議論できないので、後日としたい。

羅臼山岳会 佐々木

地域意見交換会の議事概要について訂正願う。私が意見を述べたのは、羅臼山岳会としてであった。ガイド事業者となっている部分は、私が発言した記憶もなく、私はガイド事業者ではないため削除して頂きたい。

敷田座長

単純な問題であり両者で確認の上で修正を願いたい。

羅臼山岳会 佐々木

発言した内容がかなり丸めて書かれている。辛口な発言をしていたが、綺麗にまとめられたと感じる。実際に意見交換会に出席したのは、赤岩昆布ツアーの事業関係者がほとんどであった。羅臼山岳会からは事務局長が出席する予定であったが、急遽私が行くこととなった。検討の内容もわからないまま行ったため、一町民として出席したつもりでいた。私も事業関係者のような者であり、本会議での本ツアーの試行を承認した者である。関係

者のつもりで全体の意見を聞きたかったわけであるが、結局は私達の意見が町民全体の意見になってしまったと捉えている。

羅臼町と斜里町の感覚とは大いに違う。赤岩地区では土地が連担してある。資料 1-4-6 の最後に地図があるが、赤岩の先から知床岬の境界まで、点々と表示されているのは番屋である。相泊から知床の赤岩までの国立公園内で、土地がどのくらいあるのかを役場に確認したところ 116 筆の土地があった。私は子供の頃から羅臼に住んでいるが、当時の赤岩も私の住んでいた市街地も利用形態はほとんど変わらない。赤岩の方が賑やかだったのでないか。我々は市街地と同じ感覚で見ている。斜里側とは感覚が違う部分である。斜里側はサケ定置網漁を行っていたため土地が点々とあるだけである。羅臼は先端部から羅臼の本町、市街地、私が住む幌萌、標津町の境界まではほとんど昆布漁を行っていた。事業計画ができ、エコツーリズムの戦略ができたことは自然なことだと感じている。問題は土地が連担しているという部分であり、北海道の農地と同じく明治中期から昭和初期にかけて・・・・・・・・。

敷田座長

大変申し訳ないが、16 時 30 分に退室したい方もいるので、発言をまとめて頂きたい。

羅臼山岳会 佐々木

土地には民法に定められた所有権がある。なおかつ憲法に保障された権利がある。その権利は大きなものがある。我々の感覚からいうと、環境省の特別保護地区や第一種特別地域を外国資本に買収された場合等はどのようになるのかということである。事業的には価値が無い土地ではあるが心配である。50 年間守り通したというと語弊があるかもしれないが、使わない選択もあると思う。教育というのはエコツーリズムだけでなく、マストアーにもある。

敷田座長

いくつもの重要な指摘を頂いた。共感する皆様も多かったのではないかと。時間の関係上、他の方の意見も伺いたい。小林委員と環境省釧路自然環境事務所の安田所長は時間の制約で 16 時 30 分に退室する。その他にも時間制限のある方は簡潔に発言して頂き退室していただいて結構である。その後の承認については、この会場に一任して頂くということを承知頂きたい。

事務局 環境省 安田

利用の心得の改定を行う際には、これまでの精神を尊重しようということから、内容の大きな変更にはならなかった。これは様々な価値観や知床に対する思いがあるからである。この問題と切り離して先端部利用についての意見交換をする場を作っていかなければなら

ないと考える。地域の方々の合意がなくては行政としての判断ができないこともある。科学的な知見も必要になってくる。そういうことも含めて地域の方々とも意見交換する場を、今回の提案とは切り離して考えていきたい。

敷田座長

所長からの発言にあったように、利用の心得については、新たな場を作って議論を進めていただけるということであり、それに対しては皆様も評価していただけるのではないかと。

知床全体の話では、本日桜井委員長に出席していただいております、様々なことを実感して頂いたと思う。管理計画や利用の心得、岬に関連するものも含めて今一度科学委員会でも議論して頂きたい。議論の際の科学的知見には、社会科学的な面も含まれる。私と愛甲委員、石川委員が科学委員会の委員になっている。その場では、地域住民や関係者の方の意見も一つの重要な要素、科学的な要素ととらえることができる。それも含めた議論をさせて頂きたい。桜井委員長はいかがか。

科学委員会 桜井委員長

承知した。

敷田座長

これまでの科学委員会と性質的に議論が変わるかもしれない。本日は桜井委員長に皆様の意見を聞いていただいたため、委員長自ら判断をしていただけると思う。愛甲委員、石川委員いかがか。承知していただいたということである。今の提案に従って進めさせて頂く。関連する意見はあるか。

羅臼山岳会 佐々木

科学委員会の委員には、法律的な関係者がいない。先端部に関わらず、閉鎖中の横断道路の観光利用というような部分については、道路法や様々な特例利用等がある。法律的問題に関しての対応について、科学委員会としての考えはあるか。

敷田座長

座長の立場から言うと、法律面は事務局に信頼できる行政の専門家がいる。客観的な法的判断ということになれば、その時々に応じた専門家の意見を聞く機会は設けられると思う。そのため、この場に法律の専門家を委員として招聘する考えはない。ただし運営上はテーマに合わせて学識経験者等を招聘する仕組みも持っているため、必要があれば法律の専門家を検討会議に呼ぶことは可能である。科学委員会の仕組みについては、この場の議論対象ではないため、改めて事務局から説明して頂く。他に意見はあるか。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

本ツアーの採決の前に一言だけ述べたい。本ツアーは採算が取れるわけではない。文化歴史を伝えるために採算が取れなくともやらなければいけないと認識してほしい。知床らうすリンクルやワイルドライフクルーズでも採算が取れるわけではない。

佐々木氏の発言に民意では無いという話があったが、赤岩の現役の昆布漁師である成田氏や、養殖部会長の相木氏が、やはりこのツアーはやっていくべきであると。伝えていくべきであると言ってくれた。

私は祖父や祖母が苦勞してまでどうしてあんな所へ行かなければならないのかと子供の頃から思っていた。こういうことを伝えていかなければならない。知床での大切な話である。地域住民の同意という話が出ていたが、利用の心得や科学委員会での議論では、住民意見など一つも反映されていない。利用の心得が策定された時は私が成人した後のことだと思うが、住民同意など全くしていない。町長や組合長が同意したからといって、それが民意だというのか。事業者や関係団体の意見だけでは民意とはいえない。今この大きな括りの中で行っていることに民意など活かされていない。一つの意見として聞いて頂きたい。

敷田座長

貴重な意見に感謝します。長谷川氏の発言のように、経済的に無理があるという主張をされると、この案件は実施に無理がある持続可能ではないツアーとなり、不承認となる。経営的に成り立たないツアーを承認することできない。しかし、気持ちは承知しておく。次に、民意を聞くという意見をいただいたが、私は長谷川氏が住民としての民意を伝えていただいていると思っている。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

敷田座長の今の言い方はフェアではない。

敷田座長

皆様は長谷川氏以外の民意も聞きたいと思う。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

そうであると思うが、大変失礼な言い方である。我々はこの会議から逸脱しても良い。

敷田座長

引き続き意見を頂きたい。

知床羅臼町観光協会 池上

経済的に採算が合うかどうかという点について説明する。資料 1-4-5 の実施方針に記載

のとおり事業維持のための集客目標人数は80名である。実施内容をそのまま維持し、質を担保したい。更に指摘いただいた科学的価値、教育的価値も高めることで、更なるステップアップにつなげるためには、利益に余裕を持って進みたい。それを維持するためには80名の集客を目標にしたい。

それより下回るとしても何とか継続して行きたいが、採算が取れる状態でこの事業自体を継続していきたい。例えば、集客人数が40名となるようであれば、募集の実施日を絞る等、採算が合うように調整して、この事業自体を絶やさずに継続していけるよう努力したい。

敷田座長

ありがとうございます。素晴らしい説明である。間野委員の発言でも、実際の集客人数がどれぐらいになれば採算が取れるのかという質問があったが、それに基づいて承認する際の条件が付くかどうかという議論に進めることができる。同時に、これで長谷川氏の採算性の主張も確認できた。他の関連する意見はあるか。

知床斜里町観光協会 上野

本ツアーについては、知床羅臼町観光協会が非常に奮闘されていると感じる。自然保護の現場の日本の縮図のように感じる。新しい切り口がこの羅臼町観光協会から出てきたが、本当の意味付けがきちんと議論されていないのではないか。環境省がエコツーリズムを語り始めて、ようやくエコツーリズムの本質の部分に今近づきつつあるのではないか。この提案を是非続けていけるように皆様も協賛頂きたい。

敷田座長

極めて全体的な視野に基づく良い意見である。

小林委員

途中で退室するため意見を述べる。環境省は現在ブランディング戦力にも力を入れている。そういう意味でも、個々の議論、先端部の議論は、非常に重要な問題である。逆に提起いただいたという部分もあり、それを受けて我々も本気で議論しなければいけない段階にきている。環境省のいう国立公園のブランディングが知床では何なのかということが問われている。知床は国立公園となって50年以上の歴史があり、これまで様々なことを積み重ねてきた。その中で様々な軋轢もありながら、様々な合意形成を図ってきた。そしてさらに発展していくための次のステージの入口にきている。この場に居る方々が真摯に議論を進めていただければよいように期待したい。

敷田座長

ありがとうございました。関連した意見やコメントはないか。

羅臼町教育委員会 金澤

遅れて申し訳ない。遅れてきたため話が噛み合うかどうかかわからないが、意見を述べさせて頂く。

現在羅臼町では、すべての幼稚園と学校、小学校から高校までで ESD を推進している。ESD について話すと長くなるためここでは簡単に説明させて頂く。ESD とは、今だけ、ここだけ、自分だけというような考え方の真反対の考え方である。今ある資源を持続的に利用する。ESD というのは「持続可能な開発のための教育」という言葉を英語にした時の頭文字である。

本ツアーの提案があった際に、日本の観光のあり方に対して根本から問い直しを迫る企画であると感じた。

本当の意味での観光というのは、その土地の文化や歴史を学ぶことであったのではない。現在の観光のあり方は、美味しいものと景色、そして温泉、それだけで終わってしまう。環境省でも率先して進めている羅臼町の ESD であるが、北海道ではまだ普及していないのが現状である。多分この会議の構成員の中でも ESD という言葉を初めてお聞きになった方もいるのではないか。北海道では ESD に対する周知が大変遅れている。現在、そういう教育理念も羅臼から発信しようという気概を持って取り組んでいる。自画自賛であるが、そういう意味ではこのツアーと双璧をなすと感じている。

敷田座長

ESD は非常に重要な考えであると思っている。改めて次の機会に説明頂きたい。中川委員の意見を最後にして承認手続きに移りたい。

中川委員

昆布の歴史や漁業を学ぶツアーというのは、やはり素晴らしいツアーである。しかし、継続して行っていくためには採算が取れなくてはいけない。もっとたくさんの方が参加できるための工夫をしてほしい。先端部の利用の心得の考え方をクリアにすることということも含めて再検討してほしい。

例えば昆布番屋を相泊等に復元して、天候で船が出せない時でも行くことができるようにする。天気の良い時には船で赤岩へ行き、重要で歴史的な説明をする。上陸することではなくても、大きな船でゆったりと行けるようなこと。目の前で昆布を採っているところを見る。ガイドから間近に見える番屋の説明を受ける。そういうことで集客も可能になる。

当面は現状の利用の心得との整合性を取って行っていくというのはどうか。知床岬を今後どうしていくのかということを考えることが重要だとは思いますが、そのようなことで工夫

してもらいたい。

敷田座長

ありがとうございました。次に愛甲委員どうぞ。

愛甲委員

質問がある。知床の他の地区でも外国人の観光客が非常に増えている状態であるが、赤岩ツアーで外国人対応は可能であるのか。最近、体験型のツアーに参加したいという外国人の要望が非常に強い。現状でも道外の方が多く参加されている。外国人の方にはすごく強く訴えるものがあるのではないかな。

知床羅臼町観光協会 池上

外国人の方にも是非味わって頂きたいツアーである。主催者である知床らうすリンクルでは、今後外国語対応の職員を受け入れる予定である。しかし、通訳案内士の資格を持っているわけではないため、外国人の方を案内できるということは現段階ではいえない。しかし、外国人の方にも同じ質のエコツアーを味わっていただけるよう努力したい。

敷田座長

以上でよろしいか。

間野委員

報告書を読んでいて危惧したことがある。現在語り部となっている人、案内をしている人はある程度高齢の方ではないかと思う。やはり地域の発展とともに持続して伝えてくためには、後継者をどのように考えているのかが気になる。先程 ESD の話題が出たが、学校教育では少々時間がかかる。地域の実情の中で体験しながら、地域の歴史や文化に誇りをもって伝えていくという明確な目的であり、そういう人が次世代のこういうツアーを支える貴重な後継者になると思う。そういう視野で連携されると具体的な目的も見えてくるのではないかな。後継者に伝えようという熱意を持ってやっていただくことが重要だと感じた。

敷田座長

間野委員の発言は、持続可能性に関わる問題であり、後継者問題についても考慮して頂きたいという発言であった。

これまでの議論で皆様の意見は十分出たと思われる。時間の制約もあるため、ここで決定させて頂きたい。私が内容の整理し、その上で承認の可否を問いたい。異論があれば遠慮なく発言してほしい。

現段階での提案者からの申し入れは、「無条件承認」であった。しかし、会場からの様々

な意見では、無条件での承認というのは無理であると判断できる。一方で、複数の意見があったように、このツアーは非常に先進的であり、これまで原生自然をある意味「モノ」としてセールスしてきた従来型ツアーとは異なり、コンテンツを作り出して「物語を販売」するという、意欲のある地域住民の「プライドツアー」でもある。その点の主旨は非常に共有できることから、条件付きの承認が望ましいと考えている。条件については私が整理した。いずれも皆様の意見を要約したものである。

1つ目の条件は「地域内の合意形成」である。努力はしていただいたが、一般の方の意見を十分聞いているとはいえない。これについては改めて来年度以降に意見を聞いて頂きたい。事務局よりそういう場を設けていただけるという発言もあった。そのため、これを条件の1番目としたい。また、これは提案者だけに突きつけられた課題ではない。知床全体として取り組むということである。これまでのように、何かをするために仕方なしに意見を聞くということではなく、むしろ積極的にこれを支持する住民の方の意見を集めていきたい。数の問題ではなく、気持ちの問題である。きちんと調査をして頂きたい。

2つ目の条件は、経済的、経営的な持続可能性である。これについては、提案者から600名、400名という数字が出ていたが、もう一度内容を考察し、必要なら修正していただいた上で、経営的な持続可能性について検討いただきたい。現在の目標は400、600、現状は80などという数字が出たが、皆様も納得はできないところである。経営的な助言を受けた上で計画を作って頂きたい。これが条件の2番目である。

3つ目の条件は、ツアーのスタイルについてである。人数制限で最大で20名、30日となっている。20名というのは一日の最高上限人数であり、さらに先程説明があったとおり30日が日数の上限となる。これを上限とするということには異論がないと思う。1回のツアー希望が20名とコントロールされているからである。これが条件の3番目である。

4つ目の条件はモニタリングである。提案者から一部のモニタリングを中止するという話があった。しかしモニタリングは重要な要素である。そこで、これについては提案者だけに責任を負わせるのではなく、関係者も連携して支援をする必要がある。特に、先行する利用者の権利、トレッカーの権利を一方的に無視して「新たな利用」を入れることはフェアではない。私個人の見解でもあるが、フェアな利用を目指す上でも、トレッカーのモニタリングは維持して欲しい。これが条件の4番目である。

5つ目の条件は、提案者の発言にあったツアーとしてのスタイルについてである。私も実際にこのツアーを1度見せていただいた。原生自然が前提となったツアーであるという事は認めざるを得ない。ただし、原生自然であるのか、使っていた場所であるのかという二者択一ではない。原生自然を克服してきた地域の住民の皆様が持つプライドを説明しているツアーという理解である。二者択一ではなく、原生自然でもあり、利用している地域でもあるというのが非常に重要な要素である。この点については、この会場の了解事項として事業者は意識して頂きたい。原生自然だけ、文化だけをセールスするのではなく、それをセットとしたセールス、ブランド化をして頂きたい。これが条件の5番目である。これ

は私の専門分野から判断している。

最後に提案者からこのツアーを催行するときの制約が多いのでセールスができないという発言があった。いつ中止になるかわからないツアーでは、事業者としてセールスができないということであった。これについては、これまでの条件付きの期間 3 年であったが、今後は 5 年間とし座長から提案したい。5 年間という期間は十分セールスするに耐え得る期間だと思う。逆に言うと制約がないのとはほぼ等しいため、セールスができない理由にはならない。真剣勝負をしていただきたい。

なお、5 年間と提案する理由には次のようなことがある。事務局側にとっても、利用の心得や管理計画、科学委員会での検討体制を見直すためにも、3 年というのは短いと考えている。そのため事務局了承の上で 5 年とさせて頂きたい。

条件が非常に多くなったが、いずれも相互に関連している条件であるので、一体とした条件としたい。この点を了承頂きたい。最終的な皆様の承認を得たいと思うが、提案者はいかがか。

知床羅臼町観光協会 池上

条件について了解した。

敷田座長

5 年間で体制を検討するという条件に対して事務局側はいかがか。

事務局 環境省 石川

問題ない。

敷田座長

5 年間の間に体制の検討を行って頂くということである。ただし、実施ではなく、5 年間でもっと利用の規制を強めていくという皆様の合意形成がされた場合には、その結果も承知して頂く。これが極めて正しい民意の選択であり、ここでそれを決めるわけではない。緩めるように決めるという民意の問い方ではなく、大きな流れを作っていければ良いと思う。

関係者、提案者には今の条件を含めて承認を問うことで承知いただいた。承認のプロセスに入る。条件付きで 5 年間、先程私が整理した条件下でのツアー実施して頂くことについて承認の手続きを行う。承認する方は挙手を願いたい。

賛成多数であり、本件は条件付きの承認としたい。皆様、ご協力ありがとうございます。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

条件が付いても良かった。どうもありがとうございました。

敷田座長

私以外の皆さんに感謝をしていただきたい。

知床羅臼観光船協議会 長谷川

敷田座長にも皆様にも感謝している。

敷田座長

次の議題に移りたい。16時30分迄の予定を延長させて頂く。申し訳ないが承知願う。次の議題は各部会からの報告である。事務局から一括報告頂きたい。

【議題2. 個別部会等からの報告】

事務局 環境省 前田

知床五湖地区における取組の進捗状況について説明（資料2-1）

カムイワッカ地区における検討の進捗状況について説明（資料2-2）

ウトロ海域における取組の進捗状況について説明（資料2-3）

敷田座長

報告ありがとうございました。知床五湖、カムイワッカ、ウトロ海域の3件の報告をいただいた。内容について質問、意見はあるか。知床小型観光船協議会から補足はないか。非常にパフォーマンスの良い事業であり、今後の展望について一言コメント頂きたい。

知床小型観光船協議会 神尾

知床ウトロ海域環境保全協議会では、様々な人達が参加してケイマフリやそこに住む野生生物の環境保全のための活動を行っている。地域を含めて深く連携した環境ができていく。鳥を通じた広報を含めて、今後とも活動を強化していきたい。今後は総合的な環境保全を目的として、羅臼側の海域を含めて活動していただけることを視野に入れて進めていきたい。

敷田座長

ありがとうございます。ハンドブックの売り上げの使途は何か。

知床小型観光船協議会 神尾

ケイマフリに関しては未調査の部分や不明確な部分が多い。モニタリング等の調査費用に使いたい。福田氏を始めとする研究者の皆様の活動資金に充てる予定で考えている。

敷田座長

ありがとうございます。モニタリングも重要であるが、更なるブランド化推進のために投資をして頂くことも重要である。その点を良く考えて頂きたいというのが私からのコメントである。他に意見はないか。

ないようなので、3件の報告についての議論を終了したい。この3件は既存の協議会や検討会であるが、この会議では戦略の議論に非常に時間がかかってしまい、毎回時間がない中で報告をしていただいている。いずれも非常に重要な内容であり、今後もこの3つの案件については皆様の参加が必要な内容である。是非関心を持って頂きたい。

議題3の長期モニタリングについて事務局から説明願う。

【議題3. 長期モニタリングについて】

事務局 環境省 守

長期モニタリング計画に基づくモニタリング項目の評価（案）について説明（資料3-1）

平成28年度知床世界自然遺産地域の利用状況について説明（資料3-2）

敷田座長

ありがとうございました。長期モニタリングにおいては、多くの方が努力して非常に地味な作業をされているが、皆様の目にはなかなか止まらない仕事である。この知床の管理にとっては非常に重要な仕事ある。コメントや意見はないか。

愛甲委員

利用実態調査の長期モニタリング項目として様々なデータがあり、評価基準は適正な利用となっている。しかし、実際には利用者数の増減の説明となっている点について、科学委員会でも議論があった。先程知床沼についてモニタリングをされているという発言があったが、実施している部会、解散した部会で行っているモニタリングは、戦略に基づいて適正な利用がされているかを一つ一つ判断しているということになる。実際に各部会等で行われているモニタリングと、長期モニタリングをどう関連付けていくかについて議論をしなければいけない。この利用者数のデータだけではなく、そういうことが必要であると考える。

敷田座長

ありがとうございます。確かに重要なポイントであるが、全体で議論する前にワーキングの専門家一度議論して整理した方が良い。皆様の承諾がいただければ専門家グループで検討したいがいかがか。よろしいか。では、そのように進める。

これまで承認したそれぞれの内容や、これまでの部会のモニタリングについては、でき

れば私たちが判断の中に組み込みたい。事務局はいかがか。

この利用状況というのは知床白書の一部にもなる内容であり、皆様にも見ていただける内容である。例えば、羅臼山岳会でモニタリングしていた内容をここに組み込むような工夫をしたいがよろしいか。(会場から承認の意思表示)。ここにあるようなグラフを書かなければいけないということではなく、実際に目で見た実態報告でも構わないので、モニタリングは続けて頂きたい。

議事 4. その他 座長からの会議運営に関する提案に入る。その前にいくつか報告がある。
資料 4-2 の「知床半島ヒグマ管理計画について」担当者より説明願う。

【議題 4. その他 知床ヒグマ管理計画について】

【議題 4. その他 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画について】

事務局 環境省 前田

知床ヒグマ管理計画について説明 (資料 4-2)

第 3 期知床半島エゾシカ管理計画について説明 (資料 4-3)

敷田座長

2 つの報告について皆様の質問、意見はないか。

続いて北海道庁から資料 4-4 「世界自然遺産・知床の日」の取組について説明願う。

【議題 4. その他 「世界自然遺産・知床の日」の取組について】

事務局 北海道 磯崎

「世界自然遺産・知床の日」の取組について説明 (資料 4-4)

敷田座長

ありがとうございました。世界自然遺産知床の日は今年から始まった。知床条例と同じく、このエコツアーリズム戦略の仕組みの中で皆様に議論していただいて承認した内容である。内容について何か意見はありますか。

資料 4-6 ヘリクルージング航路図について斜里町から説明願う。

【議題 4. その他 ヘリコプタークルージングについて】

斜里町 茂木

ヘリクルージング航路図について説明 (資料 4-5)

2016 年度は、6 月 18 日から 9 月 30 日までの期間 (毎週水曜日定休日) 運行した。前回は 8 月末までの運行で、飛行回数 186 回、搭乗人数 440 名と報告した。その後、9 月 30 日

まで運行し、飛行回数 233 回、搭乗人数 545 名が利用したと報告を受けている。

幌別の付近から岩尾別川の間付近の高度約 1000 メーター上空で、その高度の飛行を保ちながら、飛行時間は総体で 12 分。陸地からの離隔距離は 400m を確保する。運航当初は五湖上空での旋回について苦情があったと聞いているが、その後の運用に申し入れの結果、そういう事態は無い。2016 年は 6 月 18 日から 9 月 30 日までの 105 日間であった。2017 年度の運行予定は 6 月 17 日から 9 月 10 日までの 86 日間（毎週水曜日定休日）の内容で承知している。営業時間は 9 時 30 分から 16 時 30 分に変更はない。コースは午後のコースが約 12 分で運行すると報告を受けている。

敷田座長

この案件は遺産区域内を飛行しているため、座長としてはこの場に「提案」をして頂きたいという基本的な考えは変わっていない。しかし、この会議の場で最終的に提案をしないと報告された経緯があり、斜里町からの経過報告となっている事を承知して頂きたい。

管理計画では、小林委員が指摘した通り、「航空機の低空利用は快適な利用や野生動物に悪影響を及ぼす恐れがあることから、必要に応じ関係者に対し行わないよう要請する」ことになっている。遺産地域管理計画上の問題でありながら、解決の仕組みが無いという問題でもあるので、引き続き議論はしていきたい。

【議題 4. その他 座長からの会議運営に関する提案】

敷田座長

座長からの会議運営に関する提案について説明（資料 4-6）

資料 4-6 について、皆様の賛同が得られれば、事務局や関係者で調整し、次回以降に承認を得た上で会議の仕組みについて変更したい。よろしければ整備に移る。以上 4 点である。

以上で本日用意した議題 1~4 の案件を終了する。

今回、非常に重要な案件を検討した。厳冬期の知床五湖の利用、特に赤岩地区については、条件付きの承認となったが、条件が多項目に渡るため事務局、提案者、私の間で再確認し確定したい。

以上で終了するが全体に関して何かコメントや意見はないか。

羅臼町教育委員会 金澤

この会議に地元の高校生を参加させていただけないか。羅臼町と斜里町には 2 校の道立高校があり、両校とも知床について学ぶ学校設定科目があり、将来の知床の主人公として、十分参画する資格がある。具体化は先になると思うが、検討頂きたい。

敷田座長

大変良い提案である。異論が無ければ即決したいが、いかがか。大人の議論を学ぶ非常に貴重なチャンスであり、ある意味では ESD の一つだと思う。斜里町は教育委員会が担当する事になるのか。

羅臼町教育委員会 金澤

両校とも道立高校であり教育委員会は直接関与しない。しかるべき段階を踏んで提案したい。

敷田座長

この検討会議は、(余いい意味で) 発言の責任を問われない会議である。それは関係者の自由な意見表明を優先したいからである。また参加する専門家も、専門的立場から根拠に基づいて発言をしているが、内容には当然誤りもあり、事実誤認もあることを承知頂きたい。

基本的に相互に発言をリスペクトすれば、議事はうまく運営される。寛容の精神で望んで頂きたい。それぞれ知床の将来を考えての発言であり、個人の利益を優先しての発言ではない。今後も相互のリスペクトを続けていけば、この会議も非常に生産的で知床からの価値生産や知床の価値向上のために貢献できると考える。

議事に協力いただき感謝する。以上で終了する。

-----終了-----